



復刊第64号  
題字吉岡弥生

### 国際女医学会幹部会議に出席して

国際女医学会会長 小野 春 生



本年九月三日から五日までウィーン国際女医学会本部で開催されました国際女

医学会幹部会議に出席いたしましたのでその時の状況をお知らせ申し上げます、国際女医学会会議に対する私の考えを申し上げます。

幹部会議は国際女医学会の会長、副会長その他の幹部の方が出席され国際女医学会の重要な事項について討議し決定する会でございます。今度の議題の重要なもの一つは申すまでもなく来年の東京会議についてでございます。東京会議に寄せられる各国の期待は大きく、私は改めて責任の重さを痛感いたしました。

その時の各国の方々から申されたことの第一は会議開催が八月二十二日から二十八日までで大変よかったということでございます。これは初めから分っていたことでございますが過日各国の役員へ出したアンケートに秋と書かれた国の方もやっぱり夏に決まっております。

つたと申された程でございます。日本の夏が暑いことは外国の方々もよく存知です。しかし学会会議、総会、宴会などすべて冷房完備のホテルで行うので少し暑くないし、また夏休みというこのために家族も同伴出来るし大変よいと申されておりました。

第二に議題が数多く提出され八十三にものほりましました。国際女医学会史上最大かと存じます。一九七二年のバリ会議には四五題、昨年のリオの会議も五題でございました。多数の議題を頂いたことは、テーマが皆様にアピールされたことにもよると存じますがやはり日本に寄せられる関心の高さ、期待の大きさにによるものと存じます。

第三に東京に何名ぐらいいらっしやるか? と幹部の先生方らにたづねたところ、米国から約百名、北欧諸国から約百名、オランダから約二十名、ドイツ四十名、イタリア、フランス各々二十名、オーストラリア最低六十名というところございました。幹部としてフィリピン、台湾、東南アジアの方がいらっしやいませんか? これらの国は不明ですがとにかく四百名は下らないかと存じます。

こんど決定されました一つに、総会にかける提出事項は総会の一年前の幹部会議にかけてから各国に回送し、その後総会に提出して十分論議して賛否を決定することになりました。

各総会ごとに評価委員が数名任命されております。リオの会議は学術部に対する評価は良好でしたが、登録やサービス(コーヒーションなど)など不評でした。そこで私は東京会議はすべての点で好評でありたいと願っています。

学術部においては演題の申込み書に記された簡単な内容を拝見しただけでも、ウィルスに関しては医学的レベルが高く、また地域医療についても各国女医の状況と問題点が浮彫にされておりすぐれたものと思います。

九月十五日に国際女医学会学術部長のタッドベリー先生が来日され、日本側学術部の久保田、藤井、添田、橋本諸先生とご一緒に集った演題を分類し、日程を組み、各演題申込み会員に演題の受理及び講演日の通知を送りました。

タッドベリー先生は大の親日家でウィーンより東京がよいと申されて来日されました。一生懸命日本語を勉強されておられます。お話によりますと米国では卒後教育が問題になっており年間百時間以上学会や研究会などへの出席が必要とされている由です。米国女医学会誌に掲載された論文はインデックス・マジクスに出され論文執筆時に引用されるのであります。将来国際女医学会発表の論文もこれに出版されるようになるかと存じます。今度の演題はこれに掲載されるような立派なものかと存じます。

学術面はもち論のこと東京会議の大きな目標として各国会員の相互の友情交流を掲げたいと存じます。日本人だけのグループになって集ることなく、どしどし外人の会員の中に入って友情を深めて下さいませようお願いします。

語学のハンディキャップがありましようとも会議は心の問題でございます。文法は不必要、名詞、動詞と形容詞を並べるとはウィットとユーモアと感で十分楽しめます。私がパリでスペインの会長とご一緒したことがございます。彼女はスペイン語以外が話せませんでした。それなら私は日本語で、彼女はスペイン語でと、大きな声で、手まね、足まねでお互の着物が美しいとか、スペインには何のダンスがあるとか、彼女が自分ののんでいるワインの方が私が手にしているジュースより美味しいとか、恥も外聞もなく動作をしながら楽しく過しました。このようにお友達になつて折角日本にいられたのですから心から歓待してあげようという気持ちがあれば友情を深め国際親善となるのであります。

ソーシャルプログラムとして渉外部の方々も心を砕いて下さっておりますのできつと外国の方に喜ばれる会議になると存じます。

### タッドベリー博士を迎えて

学術部 藤井 傳子

九月十五日夜、国際女医学会学術部長タッドベリー博士が、米国からはるばる来日されました。十六日夜は、国際学会会場となる京王プラザホテルで、常任組織委員によって、ささやかな歓迎夕食会がもたれ、会の後、学会会場、小会議室、同時通訳の設備などを見て廻られました。

日本側の学術委員のメンバーに小野国際女医学会会長も加わり、十七日から二十日まで数回の会合をもち、第十五回国際学会のために申込まれた演題と

簡単な口演要旨にもとずいて、演題を幾つかのグループに分類し、表のような学術講演の日程の予定が出来上りました。各セッションの中で演題の順序は来年一月十五日までに提出される抄録を検討した上で決定される予定です。

総数八三の演題は、東京会議のトピックス、(1)ウィルス性疾患およびその後遺症 に対して五五題、(2)地域医療における女医の役割 に対して二八題で、国別にわけると次のようです。

一九七八年の国際女医学会会議は西ベルリンで八月二十六日から九月二日まで開催されることになりました。ドイツではコンベンションサービスなしではと出来ないの全面的にまかせるといっていました。

以上私の報告と来年の会議への希望とを申し述べさせていただきますが世界の会員は東京会議に大いに期待を寄せ、注目しております。またお互に交流を深めることを楽しみにしております。

私共日本の会員はこの期待に応え、外国の会員に十分満足していただくよう、努力しなければならぬと存じます。

日本女医学会の皆様!!  
どうか個々の感情に捉われることなく、日本のために、協力して下さいませようお願いします。日本人として、恥かしくない立派な、しかも心温たまる思い出を残す会にしようではありませんか。

米國14、イラン9、ドイツ8、オーストラリア及びナイジェリア各7、イギリス6、日本5、ブラジル4、フランス、イタリー及びフィリピン各3、

オーストラリア、スウェーデン及び南アフリカ各2、フィンランド、ペルー、モザンビーク、カナダ、ノルウェー、オランダ、シエラ・リオン各1です。

講演日程

8月22日(日)	登	録
23日(月)	11:30~12:30 特別講演 14:00~16:00 予防接種	(8)
24日(火)	16:30~18:30 ワークショップ(3会場) A 予防接種 B 地域医療 C //	(8) (8)
25日(水)	9:00~13:00 (2会場) A 妊娠中の風疹・はしか感染他* B 地域医療*	(16) (12)
26日(木)	9:00~13:00 ウイルス感染と癌その他*	(8) (8) (15)

( )内は演題数、\*一般講演

日本女医の実態調査について

調査委員

- 柳 瀨 路子・小野 春生
- 川 島 富久子・佐藤 千代子
- 竹 内 静 香・森 川 みどり
- 八 木 貞 子・湯 本 ア サ

本年五月に甲府で開催された日本女医学会総会で、新規事業として日本の女医の実態調査を実施することになりました。

この事業計画が提案された理由は、第一に今年に国連の国際婦人年に指定されているので、この際日本の女医の実態を調査し記録にとめておくことは特に有意義であること。第二に、明年(一九七六年)東京で開催される第十

五回国際女医会国際会議の研究討議のテーマが「地域医療における女医の役割」であるので、これに材料を提供するために調査したいということでありました。

総会で決議された翌月の定例理事会で、調査委員会が発足し、委員には事業部理事(柳瀨路子・小野春生・八木貞子・竹内静香・森川みどり・佐藤千代子・川島富久子)の七名の他に、公衆衛生専攻の湯本アサ理事が加わって調

査委員会が構成されました。委員会は直ちに活動をはじめ、七月二日・十二日・十八日・二十四日と毎週会合を開いて、調査の対象や方法について検討に入りました。その結果、調査の対象は日本女医会会員に限らず、日本の医学部を卒業し、現在日本に在住する女医全員とし、まず医学部の卒業生名簿を入手して全女医のリスト・アップにとりかかることになりました。全国の医学部に名簿送付方を依頼する一方、調査委員はもち論、理事・会員に医大名簿の借用などの協力をもとめて、八月一杯でこの仕事を終了する予定を組みました。日本女医会事務局は今年暑熱の夏をこの仕事に必死にとり組み、文部省医学教育科や厚生省や医科大学へ連絡して名簿の整理にあたり、その結果、女医を育成した医学校の数・それらの学校の歴史・変遷・旧女子医学専門学校の数、そして全女医の数など貴重な資料を掴むことが出来ました。

女医の総数は一万五千余。これに物故者と住所不明者を加えると約一万八千の女医さんが医学校を卒業したことになっていきます。厚生省の医師調査による女医は約一万二千(昭和四十八年)となつていますが、この二つの実数の差はまことに興味のあるところです。調査は郵送による自計方式(アンケート様式)無記名でいたします。

調査委員会はまずアンケートに盛りこむ項目の収集に努力を集中し、医師会や保健所や衛生局を訪ねました。そして七月の理事会に材料を一括提出して八月一杯各理事に検討していただくところまで漕ぎつけました。

事務局がリスト・アップにとりかかっていた八月中は、委員は、日本医師会より依頼のあった女医実態の統計調査の文案、国際女医会が実施しようとしている実態調査の文案、都下某医師会のまとめた医師の意識調査の内容、

厚生省の医師調査表のまとめ、などを研究したり、厚生省大臣官房統計局調査部や都内の保健所を訪ねて意見をきいたり、専らまとめの研究に終始しました。

調査日を最初は昭和五十年十月一日として、国勢調査日に合わせようと考えましたが、アンケートの文案を九月の理事会に通す必要がありましたので、十一月一日に遅らせました。

九月に入り、いよいよ煮つめの操作に入りアンケート文案の仕上げに着手し、九月十三日・十九日の両日の委員会で検討して、とも角九月二十七日の定例理事会に提出することが出来ました。

私たちは検討すればする程深みに入り、範囲もひろがり、不備の点が見えてきてまだとても完全なものとは思えません。紙張の関係や費用の面などもあるので割愛せざるを得ません。一応この文案でまとめて、十月下旬までには印刷したもの、全国津々浦々の女医さん方へ、お届けいたそうと思

全国各地婦連の母親昭和史に応募しての原稿 第二次世界大戦から今日まで

荒川あや

昭和十六年京橋警察野崎署長から、管内女子青年四百名の編成をするから、救護訓練を教えるようにとの要望で救護隊が組織された。大東亜戦に移行したからは、救護や軍服修理だけでは満足出来ず、飛行機製作小系工場に幹部が通い技術を習得し、疎開できなくなった三越帯工場で飛行機の部品製作に熱中した。

その製作工程は電線の被覆を三角小刀で、けずりとる、いたって原始的な方法。人間関係も不調和だし、地下工場一ツなく、仙台、浜松、名古屋と各地で工程を終えたものが東京に集められて終結する仕組で、輸送も鉄道一本のみが頼りで爆撃されたらどうなるのか、全く見とおしと計算のない、ただひたすら八紘一字、神風を頼るが如き無計画さに驚ろき悲しみ、女工となった第一日の夜、こんな事で戦争が出来るか?と思わず泣きあかしてしま

ます。このアンケートを集計することによって、昭和五十年の日本に生活した女医の実態、医界の実情や地域医療の実態、また女医の意識調査などが出ますので、面白い結果が引き出されてくることと期待しています。ただ統計の信憑性は一にかかってアンケートの集り具合にあります。会員諸姉の絶大なご協力によって折角の調査を意義あらしめて頂きとうございます。日本女医会員でない、同じ職場の女医さん、同じ地域の女医さん、同窓の女医さんに、アンケートにご協力くださるよう、この調査を成功させてくださるよう、お願いいたします。

私たち委員は拙い腕で器を作りました。これからこの器に、ゆたかな、さまざまな果実が盛り込まれるよう、会員の皆様のご協力をひたえにお願いいたします。昭和五十年の日本の医療に従事した女医の歴史を、後の世に力合わせて書き残そうではありませんか。(50・9・27)

昭和十九年秋と記憶するが、美しくさえも見える敵機B29が一万米の上空に飛び来り、当時の日本機は高度七千米が限度だったので、一万米に達しようのためにドイツで開発された部品ハイケル製作をひきうけさせられた。

しかし当時家族疎開などで隊員がおいしく減少してゆくのを嘆いたら、恩師吉岡弥生校長が即刻一学年を応援にむけられた有難い一幕もあった。間もなく軍の秘密命令で優秀隊員を貸せとの通達、見れば電波兵器らしく、ずがるような気持でそれに応じ、軍の工作隊と共に信州に疎開させたが、成功をみずに敗戦とはなった。

信州疎開と同時に空襲ごとに作業場が焼けてゆくので、あの箱根の山荘なら作業能率も上るといふ隊員の申し出で、別荘にはわか工場となり敗戦の日まで、編隊を組んで東京まで飛びゆく敵機に切歯しながら、私は部品をリュックで背負い東京に運びつづけた。

やがて敗戦をむかえて、国民の半数をしめる私共女性の姿をしみじみと考えさせられた。折しもNHKの武田喜代子女史から敗戦の感想を聞かれたので、

一、女性は被服の改良について、織物をすべて大巾仕上げにして洋服着用とすること。

一、女性はその食生活において、炊飯時間の節約と、その保存上から米食を加工するとか、改良を加えたこと。

一、住居は畳を廃して椅子生活とすること。これは産児制限につながりはしないか。

これらの提言は当時としてはすべて時期尚早でとりあげられなかったが、私自身としては三児計画をたて、生れた女兒三人共独立人たりうるように女医に育て、女性の自覚はまず生活からだという大義にしたがって努力してきたつもりだ。

そして終戦もない二十七年に、三階ブロック建築をたて、婦人の勉強室にあて、街路には「平和は緑、母性愛は国境なく」を標語に植樹した。建物は残念ながら僅か二年ばかりで、隣地の不当工事によって破損となり、この件は新聞記事にもなったが、その時都の建築局の不誠実、暴言に驚ろき怒り、民事裁判でも小川判事から「ない袖はふれぬ」という日本の習慣をもちだされ、弁償金僅か十万で決着。

昭和三十七年のこと、戦争の賠償でうけられた東南アジア留学生会館百六十人の代表から、食費値上げの件で相談をうけた。早速文部省や外務省にお願ひしたが、ここでも血の通わぬお役所仕事にあい、留学生はストライキをする、ひいては排日に傾くのを惜しみ、第一荒川ビルホールでミーティングを重ねるうちに、女子学生の宿に困することと同情する男子学生の友情にほだされ、三番娘の家を本建築とし、その三、四階に女子学生をあつかる事にした。アジア館としようとしたが、これも男子留学生の希望で「アラカワハウス」と名づけさせられた。

恋愛問題から結婚問題まで相談をうけたが、私が保証人をしてる南ベトナムの学生は、日本の娘さんとの結婚をのぞみ、七年九か月の交際でゴールインした。まことに根気と根性のある彼自身がベトナム人は頭と心臓が強いと笑いながら語る。彼等は、実に烈々たる祖国愛の持主である、そして外国の力を排除して南と北と手をとるんだとりきんでいる。

昭和四十八年、母校の学生寮が多難な問題をはらんで廃寮になっていたので、東大久保に女子寮を建てた。それは東京女子医大創立者吉岡弥生先生が敗戦後の経営難で鉄筋の学生寮を売却されたが「百人位入る寮がほしいね」とつねづね洩らされた愛情深いお言葉が忘れられず建築したもの。そして寮

生の両親がたから喜ばれ、三年目の今年は母校新入生の約四分の一が入寮され、荒川ハウスさんと呼ばれる由をきいては一入責任を感じる。

不覚にも今日、七十四というわが年令に、はて、職業婦人は年を忘れて仕事する習性だったな、これでは家庭人として不合格ではなかったか！男女とは異質ながら同格でありたい願ひは、わが身を忘れた思ひすぎではなかったらうかと頻りに反省させられる。

昭和五十年八月六日

広島原爆記念日

恩師の教訓を追憶する秋

茨城県

岩崎 てる子

日中の残暑はまださびしうございませうが朝夕は涼味もまじりましたの、よい好季節となつてまいりました。会員の皆様にはお変わりなくご活躍のことと存じます。

このたび幾人かの会員と北極圏のアラスカ、その中心アンカレッジと赤いかえでに象徴されるカナディアンロッキーの岩壁、その影を映す静寂な湖でのんびり休養し、誰もが「来てよかった」と思い、去りがたい忘れたことこの出来ない気持ちにさせられました。

私はシアトルからのジャンボジェット機内で帰国したらこの貯えたエネルギーをもって会員の皆様と心を一つにして来年にひかえている国際女医学会の準備に協力せねばならないと深く心に刻みこみました。五、六人の会員とは募金その他についてもいろいろ話し合いました。共に心を合せてと誓いながら。

そもそも一九七二年パリで開催された第十三回国際会議総会において、満票にて一九七六年第十五回国際会議の日本開催が決定いたしました。以来本部では運営その他についてさだめしめごとるしいご活躍をつづけておいでのことと存じます。未だ募金趣意書並びに何時から募金活動を開始するか指示がありませんのでいささか気になつております。何回か国際女医学会会議に出席した皆様も同感のことと存じます。

私は茨城の僻地におりまして、社会教育の雑務に追われて多くの皆様からお送り頂きましたアンケートなど、一お返事出来ませんでしたけれど、私共日本女医学会員に与えられた大仕事、東京大会を如何にして成功させようかと思ふ心は皆さんと同じで、諸外国に劣らないように立派な会にしたい一念に燃えております。少くとも手足とか不統一のために不手際にならないようこの時こそ協力という言葉を生かして遂行しようではありませんか。

こんな時恩師吉岡会長先生のお言葉を思い出しながら「人の三人集る場所には出来るだけ出席するよ」とか、「最高学府をでた女医は日本の指導的立場に立つて社会のため貢献しなければならぬ」等々。又私共学生の頃（昭和五年卒の先輩からはじめられた）下町の患者の無料診療資金獲得のため、日比谷公会堂で昼夜二回の音楽会を催しました。その際やまひ思うように音楽会の切符が売れませんでしたので激励会を開きました。その時吉岡会長先生から「どうしたんだ」と一言、はげしく勇気づけられました。さすがは女医学生、麻酔からさめたかのようにすぐ、「では今から行って来ます」と三々五々制服制帽で当時の宮家の門を叩き、立派な玄関に立って取次の執事に協力してもらったり、高貴の邸宅らしいところへも気おくれもなくお願い

に行つて目的を果し、音楽会も無料診療所も成果をあげ、お互納得のいかなかったことなど理解するようになり、共々喜び合ったことを思い出します。会員の皆さんもなつかしい思い出でございませう。今吉岡会長先生がご存命ならどんなお顔をなさったかと思うとやっぱりじつとしてはおられませう。今や私共全会員が結集して熱意をもって協力して行くより他はないと思ひます。モローニ会長の「各人が傍観者でなく積極的に行動するように」との言葉通りに日本女医学会の団結を固めて頑張りましょう。

当時の吉岡会長先生がどんなに苦勞されて国際女医学会に加盟して下さったかを感謝しつつ擲筆します。  
(一九七五・九・五記)

理事会議事録

日時 昭和五十年七月二十六日 午後三時十分～午後四時五十分  
場所 至誠会館四階会議室  
出席者 (敬称略)  
三神、小俣、山崎、小野、久保田、守安、丸山、柳瀬、稲葉、川島、熊谷、佐藤、竹内、中西、野中、森川、山口、山本、湯本、八木、佐藤、添田

欠席者 (敬称略)  
川那部、上田、大原、佐野、中川、福永、石田、白橋、長池、藤井、福島、真鍋、森、戸田  
一、庶務報告 久保田常任理事  
二、会務報告 天沼もと 葛飾区支部 50・7・3  
三、会長挨拶状送付 (国際女医学会) 会々議開催についての定時総会後の報告

渡辺文子 (愛知県支部) 国際会議組織委員辞退

二、会計報告 守安常任理事

六月分会計報告
前進収支報告
前進収益四二一、七五五円は本部会計一般寄付金に充てる。

三、組織委員会報告 山崎副会長

常任組織委員会は定例第二土曜であり、八月九日予定通り行。
募金については
募金は一口二万円とし、できるだけ一口以上協力してもらい、ただしやむを得ぬ場合は、何人かで、一口寄付でもよい。

四、女医の実態調査草案について 柳瀬常任理事

草案につき検討す。
アンケート調査予定
九月 アンケート発送
十月末〆切
十二月末〆切(未解答に対し、催促し書類提出を依頼)

(1)別紙女医の実態調査草案に対する意見を八月末まで本部内調査委員

理事会議事録

会に提出願う。
(2)調査委員会として、秋にビジョン討論会を行いたい、なお資料調査に際し、コンピュータ使用希望の旨発言あり。
(3)日本医師会広報部よりのアンケート(女医の実態調査の一部関連あり)について(庶務部担当)
以上 上田 葉
久保田 くら

日時 昭和五十年九月二十七日 午後二時半〜三時四十五分

場所 至誠会館四階会議室

出席者 (敬称略)
三神、小俣、川那部、山崎、小野、久保田、佐野、中川、福永、丸山、守安、柳瀬、稲葉、熊谷、佐藤、竹内、中西、野中、藤井、真鍋、森川、山口、山本、湯本、八木、戸田

欠席者 (敬称略)
上田、大原、石田、川島、白橋、長池、福島、森、佐藤、添田
一、庶務報告 久保田常任理事
・会員物故者
柴山 恵子(北海道) 不明
大賀 セツ(新宿) 50・7・29
吉田 コヨシ(兵庫) 50・5
田村 フサヨ(兵庫) 50・2

・台風見舞い
高知県支部へ台風五号、六号被害見舞電報をうつ。
坂本 広猪(須崎市) 床上浸水
中平千枝子(土佐市) 床上浸水
二会員に各々災害規定により見舞金をおくる。礼状あり。
・小野常任理事ご尊父 七月三十日ご他界。理事一同として香典を供す。
8・9 常任組織委員会
於 京王プラザ

8・18 常任組織委員会広報
Vol.1 三神会長報告、日本女医会有志、書類を発送
8・21 国際女医会会議開催の件、サンケイ新聞朝刊に掲載
9・3〜5 小野国際女医会会長、国際女医会幹部会出席のためウィーンへ
9・16 Dr. Turdury(プログラマ委員長) 歓迎会
於 京王プラザ 出席者十九名
9・25 Dr. Joan Redshaw(国際女医会副会長) 歓迎会
於 帝国ホテル 出席者十四名
その他
・日中友好婦人連絡会 十月五日午後六時より中央区立会館にて講演会あり。整理券十枚購入。
・米国最新医療機器展
とき:昭和五十年十月六日(月)午後五時より
ところ:U・S・ストレイドセンター(港区赤坂一―一四)

二、会計報告 福永常任理事
別紙の通り 承認
三、議事
(1)女医の実態調査 柳瀬常任理事
アンケート諸項目の説明。
山崎副会長 実態調査に意識調査の文字を加えるべきである。
柳瀬常任理事 最終的アンケート文案なので訂正は困る。
稲葉理事より、最終的かとの質問。
その他に意見も出たが、種々の面倒は委員会に任せることになった。
会長 煩雑になるので、返信のあ

ったものをもって結果を出す方がよい。
山崎副会長からも、同様の意見あり。実態調査委員会で結論を出してもらいたい。
湯本理事 実態調査という題名のみにとどめておきたい。
(2)ルーペンダン値上げ
佐藤千代子理事から説明。現行価格より千円〜三千円値上げ。了承
(3)小出つる子氏地裁に訴えの件、三神会長より、原告側から裁判所に証人として左の人達に指令の申し出があったとの報告あり、なお臨時総会招集の請求、執行部の業務停止の訴えにつき山崎副会長より追加説明。
原告 小出つる子
被告 日本女医会
被告側証人呼出し 小野春生、山崎倫子、山本 杉
原告側証人呼出し 福津雪枝、白浜光子、稲生 襄、小出つる子、同行外二名(及川富美子、三輪輝子)
以上 上田 葉
久保田 くら

吉岡弥生賞候補者推薦について
昭和五十一年度吉岡賞受賞の適格者を本会理事又は支部長あてに、ご推薦下さるようお願いいたします。
締め切り期日:本年末日まで
下記の書類を添えご推薦願います。
1 自筆履歴書(写真貼付)
2 業績
3 推薦理由書
4 当人の承諾書

ルーペンダン価格改正のお知らせ
昭和五十年十一月より左の通り価格

昭和三十五年十月二十日印刷
昭和五十年十月二十五日発行
編集人 大原 一 枝
発行人 日本女医会
発行所 東京都新宿区市ヶ谷河田町19
社団法人 日本女医会
印刷所 東京都港区白金五―四―一 興栄美術印刷株式会社

Table with 2 columns: Original (オリジナル) and Replica (複製). Rows include Gold (金色), Silver (銀色), and Lens size (レンズ寸法).

Table with 2 columns: Square (スクエア) and Round (からくさ). Rows include Silver (シルバー製), Gold (18金製), and Lens size (レンズ寸法).

Table with 4 columns: Chain (チェーン), Lock (金鎖), Clip (クリップ), and Lens size (レンズ寸法). Rows include Silver (シルバー製), Gold (18金製), and Lens size (レンズ寸法).

昭和三十五年十月二十日印刷
昭和五十年十月二十五日発行
編集人 大原 一 枝
発行人 日本女医会
発行所 東京都新宿区市ヶ谷河田町19
社団法人 日本女医会
印刷所 東京都港区白金五―四―一 興栄美術印刷株式会社

昭和三十五年十月二十日印刷
昭和五十年十月二十五日発行
編集人 大原 一 枝
発行人 日本女医会
発行所 東京都新宿区市ヶ谷河田町19
社団法人 日本女医会
印刷所 東京都港区白金五―四―一 興栄美術印刷株式会社

昭和三十五年十月二十日印刷
昭和五十年十月二十五日発行
編集人 大原 一 枝
発行人 日本女医会
発行所 東京都新宿区市ヶ谷河田町19
社団法人 日本女医会
印刷所 東京都港区白金五―四―一 興栄美術印刷株式会社

昭和三十五年十月二十日印刷
昭和五十年十月二十五日発行
編集人 大原 一 枝
発行人 日本女医会
発行所 東京都新宿区市ヶ谷河田町19
社団法人 日本女医会
印刷所 東京都港区白金五―四―一 興栄美術印刷株式会社